

平成22年度助成状況

●平成22年度医学教育研究助成金

受賞者	助成金額
董 一飛氏 熊本大学大学院生命科学部 生体機能薬理学 学術研究員	150,000円
岩根 政晃氏 熊本大学大学院生命科学部 消化器外科学 助教	150,000円
藤田 雅紀氏 熊本大学薬学部 創薬科学(大学院先導機構) 特任助教	150,000円
林田 桃子氏 熊本大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医師	150,000円
白石 善興氏 熊本大学生命資源研究・支援センター(アイソトープ総合施設) 技術職員	150,000円
鍋木 誠氏 熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 助教	150,000円

●平成22年度医学国際交流助成金(外国人留学生奨学金)

受賞者	助成金額
ポルクナ ラティオン氏 熊本大学大学院医学教育部医学専攻 博士課程1年(タイ国)	150,000円
周 波氏 熊本大学大学院医学教育部医学専攻 博士課程1年(中国)	150,000円
趙 睿氏 熊本大学大学院医学教育部 研究生(中国)	150,000円
蘇 宇氏 熊本大学大学院医学教育部医学専攻 博士課程2年(中国)	150,000円
田 哲氏 熊本大学大学院医学教育部医学専攻 博士課程2年(中国)	150,000円
徐 琦氏 熊本大学大学院医学教育部医科学専攻 修士課程1年(中国)	150,000円

●平成22年度医学研究会・研修会助成金

助成対象事業	開催期間	助成分野(申請者)等	助成金額
第18回マクロファージ分子細胞生物学国際シンポジウム	5月20日~21日	熊本大学大学院生命科学部 細胞病理学分野 竹屋元裕教授	200,000円
熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成	9月1日~3月31日	熊本大学医学部附属病院 総合臨床研修センター長 片瀬秀隆教授	200,000円
本九祭(医学展)	10月30日~31日	実行委員長 熊本大学医学部医学科3年 木庭 茂	150,000円
薬学展	10月30日~31日	実行委員長 熊本大学薬学部3年 小崎巧隆	50,000円
第11回 熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ	12月25日	熊本大学医学部医学科長 竹屋元裕教授	96,000円

●平成22年度医学国際交流助成金

助成対象事業	開催期間	助成分野(申請者)等	助成金額
第26回熊本医学・生物科学国際シンポジウム	6月19日	熊本大学大学院生命科学部 微生物学分野 赤池孝章教授	700,000円

のと期待されます。  
最後になりましたが、医学教育FDワークショップの開催に際して、活動の意義を高く評価して戴き、ご支援を戴きました肥後医育振興会に心より感謝申し上げます。  
熊本大学医学部医学科長(現医学部長)  
竹屋 元裕

平成二十三年度「肥後医育塾」年間テーマ  
「高齢化社会における実践家庭医学」を開催

平成二十三年度「肥後医育塾」年間テーマ  
「高齢化社会における実践家庭医学」を開催

県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、「公財」肥後医育振興会、「一財」化学及血清療法研究所および熊本日日新聞社の主催で、平成二十三年度も市民公開セミナー「肥後医育塾」を開催することになりました。「高齢化社会における実践家庭医学」を年間テーマとしました。  
現在の日本は「少子高齢化社会」が進み、「老々介護」などの現実的な問題も数多く見受けられるようになってきました。また、「緩和ケア」の考え方も大きく変わってきています。そこで、今年度の肥後医育塾では、自分のためにももちろんのこと、家族のためにもという観点から、「在宅医療」、「リハビリテーション」、「認知症」について考え、学んでいきます。  
このテーマの下に、三回の公開セミナー(第四十三回から第四十五回)を行う予定にしております。総合司会は遠藤文夫肥後医育振興会常任理事(熊本大学大学院生命科学部教授)がとめることになっております。  
このうち、第四十三回は七月十八日(月)に熊本テルサで開催いたしました。テーマは「在宅医療を考える」自宅であ

心して過ごすために」といたしました。超高齢化社会の日本では、罹患者や要介護者も増加しており、そのような状況の中でもできるだけ自宅や地域で自分らしい生き方をしたいと思う人は多く、今回のセミナーでは、「在宅医療」に取り組んでおられる医師、それを支える専門職(訪問看護師、ケアマネジャー、訪問歯科医師、在宅療養支援診療所院長)の方々から現状や課題について講演・報告してもらおうとともに、行政の取り組みなどについても熊本県から詳しくお話を伺いました。講演では黒田豊先生(熊本大学医学部附属病院地域医療システム学寄附講座特任教授)に座長をお願いし、七名の講師からご講演をいただきました。  
まず、基調講演で(社)全国在宅療養支援診療所連絡会事務局長、医療法人アスムス理事長の太田秀樹先生から「人生を支える在宅医療」出前医者二十年の実践から」と題してご講演をいただきました。内容の概要は次のとおりです。  
高齢化になると足腰が弱り、移動する能力が落ち、病院にも行けなくなり、要介護状態となっても、往診や訪問介護があれば、患者さんは在宅で療養することができ、自宅で最期を迎えることも可能です。栃木県で二十年間出前医療をやってきました、これはかかりつけ医の誇りとしてやってきたのです。在宅医療とは、暮らしの場で通院ができない人たちに